

(一社) 大学女性協会 シンポジウム 2020年10月18日

気づきから変容へ

中道貞子

奈良女子大学国際交流センター

客員センター員

元奈良女子大学附属中等教育学校副校長



「中道ママが行く！」(2001)より
(中道ママは在職中に生徒からもらったニックネーム)

◆ 自己紹介

1947年生まれ 京都市立の小・中・高校卒

1969年3月 奈良女子大学理学部生物学科卒

1971年4月～2006年3月 奈良女子大学附属中等教育学校
(元奈良女子大学文学部附属中・高校)
理科教諭（30年間）・副校長（5年間）

◆ 私のライフワーク

生き物に学ぶ生物教育

～生きものってすごい！生物はおもしろい！を伝えたい～

理科（生物）教育

環境教育

アフガニスタン

大学女性協会 活動目標：女性の高等教育の向上・男女共同参画
社会の推進・国際協力と世界平和

2020年4月 新学習指導要領下での学習開始

(小学校 20年・中学校 21年・高校 22年から)



新学習指導要領に対応した教科書作成作業

2017年3月（平成29年）小・中学校学習指導要領告示

2018年3月（平成30年）高等学校学習指導要領告示

取り組みの始まりは？

2014年（平成26年）11月

文部科学大臣から中央教育審議会に諮問

アクティブ・ラーニングという記述

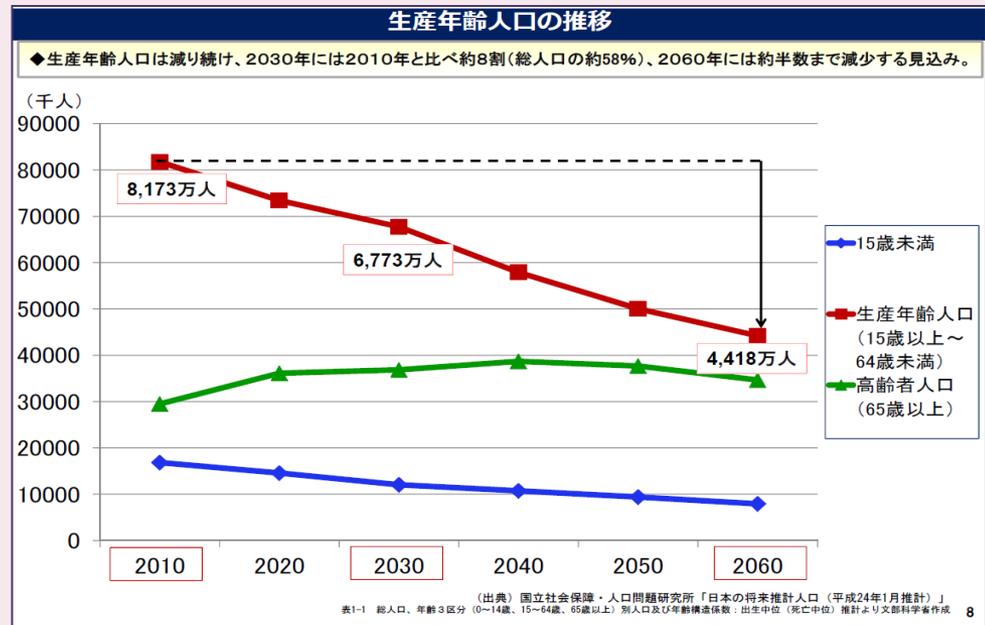
2016年（平成28年）12月21日 中央教育審議会から文科省に「答申」

入試制度改革も！

学習指導要領作成作業

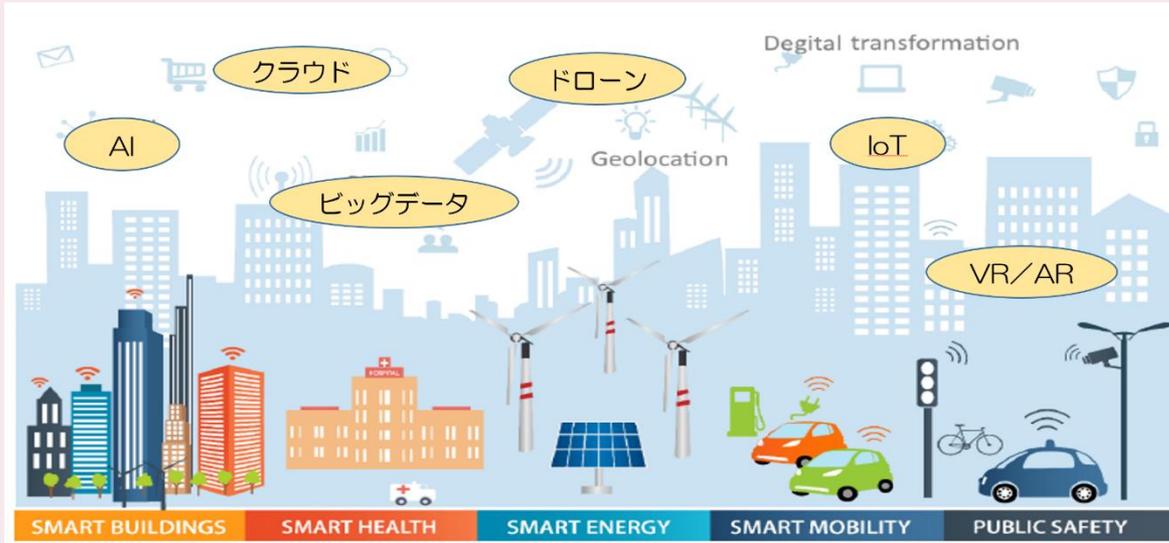
1. 2030年の社会と子供たちの未来

- 2030年の社会と子供たちの未来を築くために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示す。
- 学校を、変化する社会の中に位置付け、教育課程全体を体系化する。



日本社会の変化の一例
生産年齢人口の推移
「論点整理」補足資料より

これからの社会とは？



第4次産業革命で実現する「Society 5.0」



https://www.i-learning.jp/service/dbiz/topics/dbiz_itt10.html



内閣府：

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society 5.0）

<https://zuva.io/posts/25541>

世界に目を向けると ⇒ 多くの問題が山積

【参考】持続可能な開発目標(SDGs)の概要



ロゴ: 国連広報センター作成

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000270935.pdf>

前文 地球上の誰一人取り残さないことを誓う
⇒ 2030年までに実現することは・・・

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

2030年の世界を
見据えて・・・

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

コンテンツ
ベースから

何を学ぶか

どのように学ぶか

コンピテンシー
ベースへ

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造
的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高
い理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

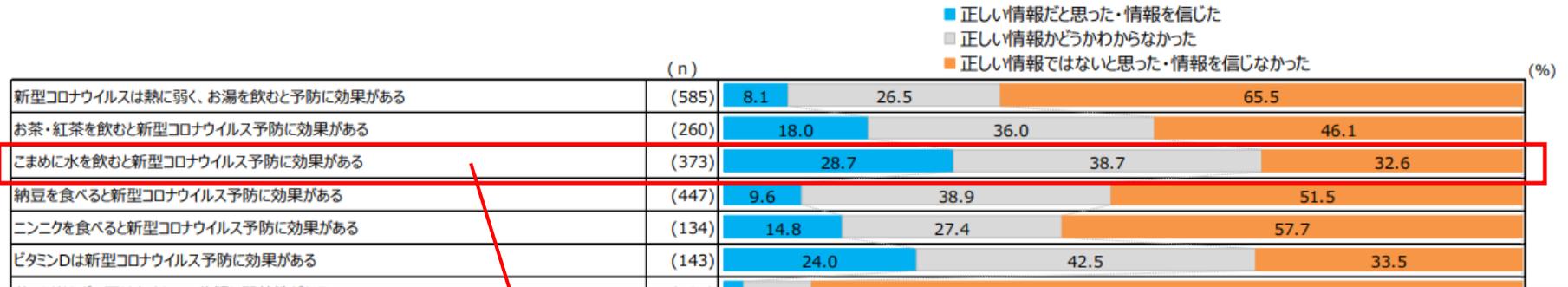
※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

教育に求められることは？

Teaching から Learning へ

コロナ禍で起こったこと

- 総務省情報流通調査（2020年6月） https://www.soumu.go.jp/main_content/000693280.pdf



「ごまめに水を飲むと新型コロナウイルス予防に効果がある」⇒信じた・不明・信じなかった 約1/3ずつという結果

新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を共有・拡散した経験①

- 具体的な17の新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を見たり聞いたりして、「正しい情報だと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かわからなかった」場合に、それらの情報について1つでも共有・拡散を経験したことがあると答えた人の割合は35.5%となった（すべての人を母数とした場合の共有・拡散経験の割合は19.5%）。
- 年代別で見ると、若い年代ほど共有・拡散経験が高い傾向が見られた（10代：45.4%、20代：41.1%）。

大阪府知事「ポピドンヨード系うがい薬がコロナにきく」との発言でたちまちドラッグストアからうがい薬が消えるという現象も・

⇒次の時代に求められるリテラシーとは？

コロナ禍での初等中等教育学校

2月27日 安倍首相による「小中高の3月2日からの
臨時休校」要請

3月 2日 全国一斉休校措置

4月16日 緊急事態宣言全国に拡大

5月25日 緊急事態宣言解除

～ 臨時休業の実施状況（5月11日時点） 文科省 ～

5月末まで休業（6月1日再開） 29都道府県

5月中下旬まで休業 9県

5月11日時点で再開 7県

当面休校を延長 2県

文科省のメッセージ：新型コロナウイルス感染症に対応した子供たちの「学びの保障」に向けて（2020年6月12日）

文科省初等中等教育局長 丸山洋司

「学びの保障」総合対策パッケージ

- * 子供たちの「学びの保障」に関する基本的な考え方
- * 文部科学省の「学びの保障」のための支援策

「学びの保障」総合対策パッケージのポイント

2

Q 2カ月も休校して、本当に学習は間に合うの？

A あらゆる手段を活用し、今年度の学びを文部科学省として

Q 学校の授業内容を削らないと終わらないのでは？

A まずは授業時間今年度の特例と
①最終学年以外取り戻すことを
②学校でしかできず
を行います

まずは・・・

登校日の設定



土曜日の活用
夏・冬休み等の見直し



分散登校の実施



時間割編成の工夫



学校行事の重点化や
準備時間の縮減



・・・などにより、学校における指導を充実

https://www.mext.go.jp/content/20200611-mxt_syoto01-000007788_1.pdf

「主体的・対話的で深い学び」はどこにもなく、コンテンツ消化の視点だけでは？

でも現場ではいろいろな取り組みがあった！国公立校の取り組み例を次に紹介

生徒の安全を守ることと生徒の学びを止めないこと

(奈良女子大学附属中等教育学校 北尾悟副校長作成資料より抜粋)

I 期 3/2月～4/7火 一斉臨時休校と郵送課題の実施

II 期 4/8水～5/8金 緊急事態宣言とオンライン学習の開始

各家庭に在宅でのオンライン学習が可能になる環境整備への協力依頼

5/10 (日) オンライン入学式 (Zoom利用)

III 期 5/11月～5/28土 時間割に基づくオンライン学習の実施 (休校延長)

家庭のICT環境調査⇒未整備の家庭(約70)に、端末・レンタルWi-Fi貸出
奈良県教育委員会「G-SUITE for Education」への参画、活用

(県内国公立学校すべての教職員と児童生徒が共通のクラウドプラットフォームで学ぶ
環境の整備)

「課題配信」オンライン、オンデマンドによる授業の実施
オンラインによる「朝の会」や「ホームルーム」実施
時間割に基づく授業開始

(1～4年 午前3時間授業 5～6年 午後4時間授業)

教育相談窓口 (養護教諭のレンタルケータイの契約)

IV 期 6/1月～ 学校再開と「感染レベルに基づく学習スタイル」の作成

6/1月～6/5金 オンライン授業継続・学年別登校日設定

6/8月～6/12金 感染防止対策にもとづく学校再開

(分散登校 半数はMeetによる同時配信)

6/15月～ 全員登校へ (時差登校・短縮授業・当初部活禁止)

学校休止中の「生徒の気づきと学びの最大化」プロジェクト

2. 生徒の気づきと学びを最大化していくために

これまでの対話をふまえると、休校中の生徒の気づきと学びの最大化していくためには、以下の6つの要素が重要だと考えられます。また、これらは STEP1 から STEP6 までを順番に進めることでスムーズに進めやすくなると考えられます。

STEP1 休校中のマインドセットを教員間で共有する

STEP2 学校(学年・個人)としての学習支援の方針を定める

STEP3 活用するデジタルツール、ルール、教材等を決定し、準備する

STEP4 学習支援の方針を生徒・保護者に共有する

STEP5 学習支援を開始し、継続的に改善する

STEP6 学校再開後に実現したい新しい学校の姿を検討する



新しい学校の姿の検討

https://berd.benesse.jp/feature/focus/25-manabi/img/200601_v2_2.pdf

註：全国約60校の教員によるプロジェクト；ベネッセが事務局として運営協力

新しい学びの萌芽 ～ 各校の取り組み事例

市立札幌藻岩高等学校

6 本校での取り組み～探究学習～

- ミライdesignテーマ別講演@Zoom
 - 働く方々にその仕事の内容や、社会の変化に伴うミライにおける仕事や働き方の変化を取材
 - 取材映像を学校HPにて公開
 - 様々な講師とSDGsで繋がる
 - 取材後、生徒もZoomに入り、自由に質問や意見交流
 - 「高校生みらいラボ」に生徒を繋ぐ
 - オンラインで社会人と繋がり、ミライについて考える
 - 自分の学校外の高校生・初対面の高校生との対話
- 高校生みらいラボHP https://scaichi.com/tao@img_nagao/view/5darc



生徒の主体的・対話的
学び、社会とのつながり
などが見てとれる

長野県立蘇南高等学校

3 一週間後(4/27～)「開拓者育成オンライン教育」を開始

- (1) Zoomホームルーム
- (2) Zoom授業による総合の学び、実習をとまなう学び
 - ☛ オンラインで地域と協働したい。また、つながりを全国に拡大したい。
- (3) 配布プリント・Classiコンテンツ(新規導入)・「ガイダンス&お助け動画」(一部の教科ではEテレを活用)をくみあわせた5教科の学び=軌跡の可視化
- (4) 「気軽な電話窓口」、「温かな図書館」の開設
- (5) 個が横につながる生徒会・部活動と校長主催の「プリコラージュ賞」
 - ☛ バドミントン部から「One 蘇南！」をうたう動画が届く。
- (6) 校長ブログを毎日発信
 - ☛ 「炉辺談話」を真似る。司書・芸術科の先生・アーティストの登場。

出典)PJ第1回、第2回報告会資料

校長ブログの毎日の更新
メッセージ発信
⇒リーダーシップ発揮

2020/06/28 東京都生物教育研究会研修
新しい生活様式における生物教育
～時数減・リアルの減少（実験）の解決に向けて～

話題提供者の資料より

今だからこそスローに ～生徒の「やりたい」を引き出す～

新渡戸文化中学・高等学校

総括校長補佐/高等学校教育デザイナー

山藤 旅聞氏

最上位目標

自立型学習者 自分で考えて・判断して・仲間と共に・行動する
大前提(居場所)

安心の場 双方向性重視 やり直しできる

⇒ 要素①～④を設定し、それぞれに含まれる内容を検討

学校全体でカリキュラムについて検討

新渡戸文化中学校のオンラインの取り組み

ラーニングテクノロジーデザイナー 奥津憲人氏

大前提：授業で目指すもの

*探究力: 「なぜ」に気づく心と、「なぜ」を作る問力

*科学的思考力: 「知っていること」ではなく「考えられること」や
「思いつくこと」

*学俗接近: 「勉強」ではなく、「人生のツール」として、社会や
日常とのつながりを考える

実践例

*クロスカリキュラム: 教科を超えた学び、社会とのつながり
1つの題材をもとに、いろいろな教科の視点からアプローチ

*家庭にあるものを使った実験

(例: 衣類用漂白剤を使った酵素の実験)

*学習内容の精選

→幹の部分「答えられるようになりたい問い」とする

時間数減への対応

三田国際学園中学校・高等学校 大野智久氏

わかりやすく丁寧に 与えられるものを

教える

習う



生徒の学びを

支援する

主体的・対話的に

学ぶ

註：

大野氏は、2022年から施行の
高等学校学習指導要領解説理
科編作成協力者のメンバー

まとめ

- 「**授業時間外の活動**」をうまくデザイン
- コンテンツは「**必要最低限**」に
- 「**ワクワク感**」と「**学び方**」で自走可能

これからの教育に求められることは？

- * 生徒自らがしっかり身の回りを見つめ、関心をもったり、疑問をもったりすること

？ が生まれる

- * どうすれば問題を解くことができるかを自分の頭で考えること

社会で役立つ力

- * 問題が解けたときの喜びを味わうこと

！ が育つ

未来を担う子供たちのために必要な教育とは？

一人ひとりが考え みんなで議論し

気づきを変容に！

～ご清聴ありがとうございました～



「中道ママ アフガンに行く！」（2008）より